

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2022年12月21日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者  
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)

滋賀県守山市川田町下替場397-4

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)  
旭シュエーベル株式会社

代表取締役社長 松出 大祐

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項  
第27条第1項・第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、  
[事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	旭シュエーベル株式会社 代表取締役社長 松出 大祐
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	滋賀県守山市川田町下替場397-4

1 事業者の概要

事業所の名称	旭シュエーベル株式会社 守山工場					
事業所の所在地	滋賀県守山市川田町下替場397-4					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	1	1	7	※産業分類・細分類名称を記載 ガラス繊維・同製品製造業
事業の概要	電子機器のプリント配線基板の補強材や電気絶縁材として使用されるガラス繊維でできた織物(ガラスクロス)を生産					
従業員の数	173	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	-	台	熱源設備	13	台
	コンプレッサ	8	台	空気調和設備	23	台
				照明設備	1000	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2022	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

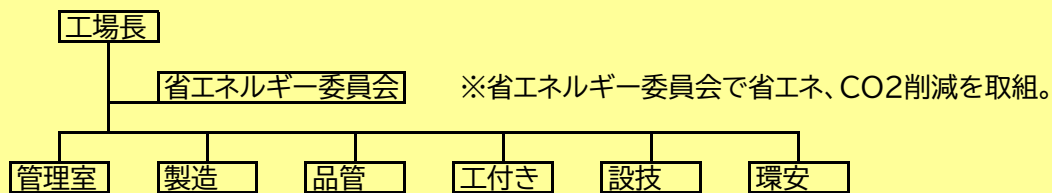
注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

全世界での2050年の脱炭素の実現に向けて、生産効率化の推進よりGHG排出量を削減する。旭化成(株)守山の製造所の環境方針は、『生産効率化によりエネルギー原単位の改善、GHG排出量の削減、省資源化を図る。』であり、傘下であり旭シュエーベル(株)も製造所の環境方針に則り、ロス削減によるエネルギー原単位の改善、効率のよい設備に更新による省エネを進める。

2 取組の推進体制

旭シュエーベル(株)守山工場の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

- 省エネ対策として2013年度から以下の取組を実施
- ・空調機、圧縮機、冷凍機、変電設備の老朽化更新による高効率機器の選定
  - ・モータ、ポンプのインバータ化による節電
  - ・圧縮機の台数制御装置の導入
  - ・照明のLED化
  - ・生産原単位向上(ロス削減)による効率化

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	新規設備、老朽化更新にあたってエネルギー効率の良いものを選定する	2022年～	
2	運用改善	生産原単位(ロス削減)を向上してエネルギー原単位を向上させる。	2022年～	
3				
4				
5				

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1		—		
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>◆旭化成(株)守山製造所の省エネ活動に積極的に参画してCO<sub>2</sub>削減に努める。</p> <p>◆省エネ対策として2013年度から以下の取組を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空調機、圧縮機、冷凍機、変電設備の老朽化更新による高効率機器の選定</li> <li>・モータ、ポンプのインバータ化による節電</li> <li>・圧縮機の台数制御装置の導入</li> <li>・照明のLED化</li> <li>・生産原単位向上(ロス削減)による効率化</li> </ul>	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		( )年度	( )年度	( )年度	( )年度	( )年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	6,466					
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	10,029	0	0	0	0	0
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	10,029					
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	0	0	0	0	0	
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>						
HFCs	t-CO <sub>2</sub>						
PFCs	t-CO <sub>2</sub>						
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー等原単位の推移							

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
<p>旭化成グループでは生産プロセスから排出される温室効果ガス排出量の削減のみならず製品および研究開発中の製品のLCA視点でCO<sub>2</sub>削減量の把握と拡大にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>上記旭化成グループの方針のもと、ガラス繊維製品の薄物化に取り組んでいます。薄物ガラス繊維製品の生産を通じて、温室効果ガス排出の削減に貢献し、低炭素社会づくりに推進して行きます。</p>	

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
<p>・生産しているガラス繊維製品の薄物化を通じて2026年度に2021年度対比で単位生産量あたりのCO<sub>2</sub>発生量を年間1%相当を削減する。</p> <p>①ガラス繊維製品の単位重量当たりのCO<sub>2</sub>排出量より年間CO<sub>2</sub>排出量を算出する。 ②年間CO<sub>2</sub>排出量を生産量で除して単位生産量当たりのCO<sub>2</sub>排出量を算出する。 ③上記②で算出される単位生産量当たりのCO<sub>2</sub>排出量を2026年度は2021年度比較年間1%相当を削減する。</p>

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価

目標の進捗に対する自己評価